

奨励賞 「北極海航路の利活用促進のための日本における港湾整備について」

北川 俊輔・神戸大学海事科学部

1. はじめに

近年、地球温暖化による北極海の海氷の減少によって欧州、東アジアをつなぐ新たな航路として北極海航路が注目されてきている。欧州と東アジアをつなぐ航路の中心であったスエズ運河を通るルートに比べ距離が60%ほどになり大幅な短縮が図れること¹から優位性があると考えられる。また、北極海航路を利用するメリットとして距離の短縮による燃料費の低下や輸送日数の短縮化などがあげられる。このことから北極海航路の利用実績²も2014年以降伸びてきており、その通航実績とともに日本に寄港する船も増えてきている。

その中でも特に寄港回数が多い都道府県は北海道³である。北海道は北極海に特に近くに位置し、また中国や韓国といった他の東アジアの国の北極海航路への航路上に位置する。そのため他国を目的地とした船が寄港することで、欧州やロシアからの日本への輸出物を北海道で荷下ろしし、日本全国に運ぶことも可能である。

このような面から寄港実績の増えている北海道だが、まだ北極海航路の輸送における中心地とは言にくい。また、これから需要が伸びていく可能性の大きい北極海航路における日本の中での中心的港湾も存在していない。このことから本稿では北極海航路の利活用の際に必要な港湾について、寄港実績の多い北海道の港を対象にどの港湾が最も中心地として適しているか、またその港湾における改善点について考察を行う。

2. 北海道港湾

北海道はすでに寄港実績があるものの、ハブ港を作ることによってメリットがあると考えられる。1つ目は、北海道に設置することで荷主に対して北極海航路に興味関心も持ってもらうことができ、利活用を促進することで輸送時間やコストの削減ができる点である。また北極海航路を経由した船が日本に寄港せずに他国の港に寄港することになると、貨物も他国を介して到着することになり輸送費も輸送時間も上がってしまう。2つ目は、北極海沿岸や欧州と北海道の貿易の促進による道産市場の拡大を図るためである。また新千歳空港と連携したクルーチェンジ等による人流活発化も期待される。

2-1 北海道港湾の比較・検討

数ある北海道の港湾の中で北極海航路の利活用におけるハブ港となる港にどの港が適しているか考察する。今回は需要の高いと思われる実際に寄港実績のある、稚内港、釧路港、苫小牧港に絞って比較を行う。

この中で必要となる観点としては、主に3つ挙げられる。①地理的利便性である。今回北

海道の港湾を対象にしているものの、明らかに地理的優位性のない土地はハブ港となるのにふさわしくない。②港湾の規模感と開発余地である。ハブ港となるにあたり大きいバースや寄港のための岸壁などが必要になる。これらが既に開発されているか、開発の余地がないとハブ港となるのにふさわしくはない。③東アジア、日本へのネットワークの機能性である。ハブ港となる港は港湾そのものの利便性だけでなく、荷下ろしされた荷物を次の目標地点に運ぶ必要がある。

稚内港は、日本の最北端に存在する港であり北海道の地理的優位性を最大に生かすことのできる土地であることから①の評価は高い。また、開発余地としても今後エネルギー的拠点⁴となることを目指していることから②の観点も高い。一方で、稚内に寄港した後にネットワークに関しては利便が悪い。

釧路港も①北海道の中では南部に位置するが十分に地理的優位性は保てており、②大きなコンテナ船が入る最大水深 14m と水深の深い港⁵を所持している。しかし、③北海道内でのアクセス、特に札幌や新千歳空港とのアクセスは良いわけではなく、日本の港とのつながりは強いとはいえない。

苫小牧港は①釧路港と同じく北海道南部に位置するものの、中国や韓国の船も寄港しやすい位置にあり地理的優位性は保てている。実際の寄港実績では、中国を目的地⁶とした船が寄港している。②今後の開発の計画である「苫小牧港の将来像・目指すビジョン・役割・施策⁷」があるように、十分に開発できると考えられる。③札幌や新千歳空港とのアクセスは良いと考えられる。これは北海道南部にあるからこそであり、上述の他の港よりも地理的優位性があるという見解もできる。北海道港湾の中で日本国内との取扱量が一番多いのもこの港湾であり、日本への貨物を運ぶためには最適である。2020 年度の貨物取扱量は日本で 3 位⁸となるなど、日本への物流網としては申し分ない。

2-2 苫小牧港湾がハブ港になるために

日本の港湾の中で、寄港実績としても一番多いのがこの港である。2017 年以降寄港実績があり、その荷役は、プラントモジュールから飼料等多岐にわたる。このほとんどが 350,00t 越えの船であり、大きい船の寄港にも対応していることがわかる。

先ほど述べたように苫小牧港も、動きを見せており長期構想の中に「北極海航路の地域的ハブ港」となることを掲げている。短中期的には、北極海航路の航行船舶への燃料や物資の補給、荒天時の避難や係留場所として、長期的には、北極海航路を航行する新規航路の係留場所、貨物の中継基地となることを構想に挙げている。

現時点では、満足できるような港湾整備はできていない。実際に隣国の韓国にあるアジアのハブ港“釜山港”を例に見てみる。単純な港の水深でも苫小牧港が 14m⁹なのに対し、釜山港は 18m¹⁰である。ヤードの広さでも苫小牧港が約 219,000 m²¹¹、釜山港は 661,736 m²である。さらに異なるのは施設の大きさだけではない。釜山港は国際旅客ターミナルとしても、機能している。さらに、そのうえで今後の開発の計画¹²では観光やビジネスの中心地となる

ことを目標に IT・映像に特化した地域や商業に特化した地域、文化に特化した地域を作る予定である。中心地として発展するために魅力的な土地づくりの一環として将来、ハードとソフト両面の整備を行うべきである。これがより多くの船舶の寄港を導き、北極海航路の日本における利活用の発展に貢献できると考える。

3 結論

以上、北極海航路の利活用における東アジアのハブ港についての提言を行った。北極海航路は今後国際的に注目を浴び得る航路であり、その中でも苫小牧港湾がハブ港となり日本や東アジアの物流網を支え、さらに北極海航路の利活用を促進することを期待する。

-
- ¹ 国土交通省総合政策局「国土交通省説明資料」2014年5月30日
(<https://www.mlit.go.jp/common/001043213.pdf>、2022年9月21日情報取得)
 - ² 国土交通省総合政策局海洋政策課「北極海航路の利用動向について」2018年8月28日
(<https://www1.mlit.go.jp/common/001252097.pdf>、2022年9月20日情報取得)
 - ³ 国土交通省総合政策局海洋政策課「北極海航路の利用動向について」2021年07月28日
(https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/ocean_policy/content/001476544.pdf、2022年9月20日情報取得)
 - ⁴ 稚内市建設産業部港湾課「稚内港長期構想計画」2014年2月
(<https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/files/00007300/00007387/20140327160924.pdf>、2022年9月21日情報取得)
 - ⁵ 釧路港港湾 BCP 協議会「釧路港港湾 BCP 《計画・検討編》」2014年3月
(<https://www.city.kushiro.lg.jp/common/000171110.pdf>、2022年9月22日情報取得)
 - ⁶ 日本海事新聞「苫小牧港/北極海航路、第3船寄港。欧州発飼料原料を荷揚げ」2018年8月4日
(<https://www.jmd.co.jp/article.php?no=237976>、2022年9月10日情報取得)
 - ⁷ 苫小牧港管理組合「苫小牧港 将来の役割と目指す姿 苫小牧港長期構想」2019年3月
(http://www.jptmk.com/001news/portplan/post_1987/index.html、2022年9月19日情報取得)
 - ⁸ 苫小牧民放「苫小牧港 初の全国3位 20年貨物取扱量 1億29万8千ト」2022年03月19日
(<http://www.hokkaido-nl.jp/article/24820#:~:text=%E4%B8%80%E6%96%B9%E3%80%81%E5%BC%92%E5%BC%91%E5%B9%B4%E3%81%AF%E9%80%9F,%E8%BF%91%E3%81%A5%E3%81%8D%E3%81%A4%E3%81%A4%E3%81%82%E3%82%8B%E3%80%82>、2022年9月21日情報取得)
 - ⁹ 苫小牧港管理組合「港湾施設情報-苫小牧港管理組合」2022年3月31日
(<http://www.jptmk.com/020shisetsu/02east.html>、2022年9月22日情報取得)
 - ¹⁰ 国土技術政策総合研究所「1.はじめに 2.世界のコンテナターミナルとコンテナ船の動向」2011年7月4日

(<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn0628pdf/ks062804.pdf>、2022 年 9 月 28 日情報取得)

¹¹ 苫小牧港国際コンテナターミナル株式会社「苫小牧国際コンテナターミナル株式会社 | 施設概要」2022 年 9 月 26 日 (<https://tict.jp/equipment/index.html>、2022 年 9 月 28 日情報取得)

¹² 釜山市政「釜山市政 > 主要プロジェクト > 北港再開発事業」2022 年 9 月 30 日 (<https://www.busan.go.kr/jpn/bssubprojec>、2022 年 9 月 30 日情報取得)